

KAED E

MAGAZINE



特集対談 現代大学生考

橋本五郎 × 池田明史



楓の会

SPRING /
SUMMER 2017

VOL. 13

池田明史

東洋英和女学院大学学長

Akifumi Ikeda

橋本五郎

東洋英和楓の会顧問

Goro Hashimoto

1989年横浜校地に大学が開設されて今年で28年。

当初、人文学部／人間科学科・社会科学科の1学部2学科からスタートしたその規模は、人間科学部／人間科学科・保育子ども学科、国際社会学部／国際社会学科・国際コミュニケーション学科の2学部4学科、学生総数約2,300名にまで拡大しています。

卒業生の数も増加している現在、学院にとっても大学の存在はとても大きなものとなりました。

現代の大学生とはいったいどんな存在なのか、またその中で東洋英和の大学がめざすところはどうか、橋本顧問と池田学長がざっくばらんに語り合いました。

今号の表紙

前号に引き続き、写真家・笠井爾示さんに撮影していただきました。横浜校地で撮影に応じてくれたのは、たまたま通りかかった5人組の学生。「実習とか、やらなきゃならないことが多くて大変ですー」という彼女たちは全員人間科学部保育子ども学科だそう。忙しいと言いつつも、どこかほんわかしているのは、やはり英和の校風でしょうか。

聖書の言葉

「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。」

コリントの信徒への手紙一15章3節

受け、伝えた内容は、イエスさまがなされたこと。すなわち十字架と復活です。そこに示された神さまの大きな愛を担うことができるのは、幸いなことです。

日本基督教団 鳥居坂教会 牧師 野村 稔

CONTENTS

- 02 **特集対談** 現代大学生考
橋本五郎×池田明史
- 09 東洋英和ビジュアル歴史館 File.2
学院に現存する
最も古いプログラム
- 11 EIWA Family 第10回
英和茶会
- 13 KAEDE People 第13回
切り絵作家
TANTANさん
- 15 Event Report
東洋英和楓の会主催
ザ・メイプルズ・コンサート
- 16・18 Event・Report・Topics

橋本五郎さんは娘さんが大学の卒業生。池田明史学長は就任して約三年。二人の学生時代と現代の大学生は何が違うのか、という話題から対談は始まった。

のびやかな英和の気質は
社会で評価されている

池田 お嬢さんはいつ頃まで在学されていたのですか。

橋本 15年くらい前までですね。経済企画庁から来られた香西泰先生のゼミにお世話になりました。香西先生は、「まあ、東洋英和は本当にお嬢さまばかりで」とよくおっしゃっていて、英和に来てからすっかり人生が変わられたようでした。池田学長もそうでしたか？

池田 私は中東紛争研究が

専門で、英和に来る前までずっとドンパチの現場にいたので、女子大はまるで別世界でした。ただ、これはウチだけの話じゃないですが、その頃と比べてものすごい勢いで学生の質が変わってきています。

本学は1989年の開学ですが、18歳人口のピークは92年の205万人で、それに対して大学数は523校でした。それが今、18歳人口は120万人を切っているのに、大学は780校くらいある。

すね。

橋本 それこそまさしく英和が目指しているものかもしれない。ちよつと話は逸れるけど、「福沢論吉というのはコンパスのような人だ」と言う人がいて。それは何かというと、福沢論吉は「独立自尊」という絶対に動かない軸と、その時々的情勢を考えながら対応する自由自在な脚を持っている、だからコンパスだと言っています。英和生についても「敬神奉仕」という動かない軸があるけれども、それ以外は自由に振る舞っているように見えます。池田 「敬神奉仕」は英和のスクールモットーですが、私は特に「敬神」の部分が、そのコンパスの軸ではないかと思えます。神を敬うことで自分の中に動かない規範を持って、ということではないかと。一方、「奉仕」というのは他者への関わり方を表している。人のために働くこと、人と協力して働くこと、それが奉仕です。つまり、規範を持って協働できる人間を育てるのが英和の役割なんじゃないか。私は「敬神奉仕」についてそのような解釈しているんです。

今のようない時代だからこそ
学生に大事にしてほしいこと

橋本 私は新聞記者ですので、ジャーナリストの要件として三つのことを考えています。一つ目は、健全な相対主義。自分はこれを信じることにしているが、他者がそれを信ずることも

選びさえしなければ、みんなどこかの大学に入れることになってるので、競争のない分、おっとりしています。15年前だったら、まだ学生は自分で文献探しをしていただけ、今の学生は、「文献を探してこい」と言うと、「どこにありますか」と聞いてきます。下手をすると、図書館のどの棚にあるかまで言わなきゃならないような学生が増えてきているんです。

橋本 私は大学が慶應なんですけど、先輩である江藤淳さんは「大学に入ったら、肩で息するほど勉強したい」と言って入学されたとき聞きました。肩で息するほど勉強するだなんてすごいものだなと

二人の学生時代の大学生気質。 娘や学生から感じる英和生の印象は？

思ってたね。ところが特に現代の学生を見ると、ほとんどレクリエーションのために大学に来ている感じがあるでしょう？ 私はそんな現状に日頃不満を持っているんです。

ただ英和を見ていると、雰囲気ガツガツしてないというか、一貫校ならではのおおらかさがありますね。娘もよく言うんですが、先生と友だちに恵まれてのびのび過ごせたと。私はそれも大事なことだなと思うんです。

認めるということ。100対0ではなく、半々でものごとを考えるということ。二つ目は、適度の懐疑心です。自分はどこか間違っていないかと疑う気持ちを持つ。あまりそれが強いとニヒリズムにつながるので、適度であることが重要です。三つ目は、鳥の目と虫の目。今、私たちが置かれている時代はどういう時代なのかということ、鳥が大空から見渡すように考える。一方で周囲のことに目を向け、一人一人の関係を大事にする。これらは社会人にも応用できることであって、大学の4年間はこうしたものを身につける訓練期間にするといんじゃないかと考えています。

池田 私が学生に常々言っているのは、「問題関心」を持ってということ。問題関心とは、「ちよつと待て

池田 昔も今も英和の良さというのは、小規模で教職員と学生の距離が近いところですね。

先生はたいいてい「ちゃん」づけで呼ばれていますから。私は国際基督教大学や青山学院大学でも教えているんですが、いずれもミッシェン系の大学で共学。女子学生に関して言えば、英和生のほうがのびやかですね。やっぱり、同性だけのほうが気兼ねがないんでしょう。共学というと、どうしても女性はどこかで一歩引くところがあるみたい

です。ただ、女子学生がおしとやかかというところ、そういうことはない。夏休みの前にバックパックを背負って、「今から中東を回ってくるので、誰か紹介してください」と聞きに来るのは、全部女子学生ですね。

橋本 新聞記者もそうですよ。熱意、能力、頑張り、あらゆる面で女性のほうがすぐれています。男はいまいちピリッとしない。ただし、全体をまとめるといふ場面では、ほんやりしている男がいると、うまく行くことがある。

池田 それは面白い。ウチの卒業生に対する企業の評価として、「私が、私が」と言ってバリバリやるタイプは少ないけれど、その子がいるとチームのパフォーマンスが上がるんだという話をよく聞きます。仕事は基本的にチームでやりますから、潤滑油的な役割を果たせるとか、人を和ませる力を持っていると、社会の中で必要とされるわけ

よ」と思うことです。相対主義にせよ自己懐疑にせよ、結局はちよつと待てよと自分に問いかけることだろうと思います。

ひとつ面白い話があつて。学生さんの友人にマタギの家の子がいて、実家に遊びに行ったことがあるんです。すごい山の中へ連れてってもらって、獲った熊の肉を食べた覚えがある。そのとき、マタギであるその父親に山で迷うことはないのかと聞いたんですね。すると、「迷うことはない。特に暗くなるとどうにもならなくなる」と。どうするかと聞いたら、「とにかくしゃがむんだ。焦つてあつち行ったりこつち行ったりすると、木にぶつかつたり足を滑らせて沢に落ちたりする。だから、自分が迷つたと思つたときはしゃがむ。しゃがん



橋本 五郎 (はしもと ごろう)

1946年12月秋田県生まれ。70年慶応義塾大学法学部卒業後、読売新聞社入社。地方部、政治部などを経て、論説委員、政治部長、編集局次長を歴任。現在、読売新聞特別編集委員。2014年度日本記者クラブ賞受賞。日本テレビ系列「スッキリ!!」「情報ライブ ミヤネ屋」「ウェークアップ!ばらす」などのレギュラーコメンテーター。



池田 明史 (いけだ あきふみ)

1955年10月神奈川県生まれ。80年東北大学法学部卒業後、アジア経済研究所入所。動向分析部、総合研究部などに所属し、主に中東の現代政治分析を担当。97年東洋英和女学院大学社会科学部助教授。社会科学部教授、国際社会学部長、副学長を経て、2014年より現職。専門は国際政治学、地域研究(中東)。

で、その場で寝て、明るくなってから動く」と言うんです。

橋本 立ちどまるということですね。

池田 私は社会で生きていくときにも通じる知恵だなど思いました。学生たちに対しては、「日本はこれから経済的にも社会的にも非常に厳しい時代になっていく。本当にどうしよう、困ったなと思うときが必ず来るだろう。そのときは、とにかく立ちどまってしゃがめ。うろろろしないで、視線を低くすることが大事だ」ということを伝えていきたいと思っています。

橋本 高校時代、母校・秋田高校の校長先生が入学式のあいさつでこう言われたんです。「汝、なんのためにそこにありや——いつ、どこで、誰に、

こう問われても、ただちに断言できる人間になってほしい」と。この言葉はとても重い。「今、おまえは何のためにそこにいるんだ」という問いかけを常に自分に突き刺してくるんですよ。

池田 私、そんなことを言われたら、「酒を飲むためだ」という話になるだろうと思うけど(笑)。

橋本 私は今テレビで解説者の仕事もしているけれど、テレビカメラの向こうに先生と母の顔が浮かんで、「汝、なんのためにそこにありや」と

大学生は、教師は、どうあるべきなのか？

学校と一緒に連れてってもらおうと、先生が酒を飲んでいたりした。ああいう牧歌的な空気が大事だったなという気がします。

対談は、学生時代の恩師の話題へ。そこで出てきたのが、学生と教員の関係、教育の意義についてだった。

学校は「自分が分かっていること」を知るためにある

池田 今の話で思い出したけど、高校のとき生物の先生に、「今から解剖の授業をやるから市場へ行ってイカを買ってこい」と言われて、何でイカだろうと思いつきながら買に行かされたことがありました。イカを解剖した後、今度はその先生が「イカの塩辛のつくり方を教えてやる」と言って、ビールとアルコールランプで燗をつけ始めたんです。もちろん、生徒には飲ませてくれないけどね。授業で何を教わったかまったく覚えていないけれど、そういうことは覚えているわけです。誰かの言葉ですが、「学校で習ったことを全部忘れた後に残るのが教育だ」と。

橋本 それはアインシュタインですね。

池田 今のような教育の環境の中で、果たして残るものがあるのかねと思うけれど。

橋本 私は大学に入って、真夏の暑い日にタラタラ汗を流しながら読んだ本のは覚えています

ね。安藤英治の『マックス・ウェーバー研究』、これは全然わからなかった。マルクスの労働価値説(『資本論』)、これも全然わからなかった。わからないけど、あのときタラタラ汗を流しながら本を読んだという記憶だけは残っている。大学生は4年間のどこかでそういう経験する必要があると思っていますね。

池田 東北大学時代の恩師がナチス研究者の先生で、私は入学1年目の年、彼が自宅の横に建てた小さな寮で生活してたんです。そこで、ものすごい量の本を読まされた。カール・バルト、ブルナー、フランクフルト；読んでもまったくわからないけど、字面をずっと追っていつて、とにかく最後まで読み通した。わかったつもりまでにはなりません。結局、あまりの読書量に耐えきれなくて途中で逃げ出したんですが、今になって、あのときの1年足らずの生活が決定的だったなという気がしているんですね。

橋本 いくら逆立ちしても自分にはかなわないもの、わからないものがこの世に存在する。その厳然たる事実を知るといえるのは、非常に大切なことだと思います。そうすることで自分を絶対化せず、努力しよう、知ろうとする具合になっていくから。

池田 学校というのは、実はわからないことを知る場なんですよ。一方で、我々が学生だった頃は、何とかしてこの先生をへこませてやろうという気持ちもありました。先生にそれは違うんじゃない

聞こえてくる時があった。「グローバル」という言葉を使うものなら、「そんな言葉で年寄りがかかるか」と叱られる気がしてビクツとなる。「グ…」というところで慌ててそれをのみ込んで、違う言葉に言い換えたりするんですけれどね。卒業から50年以上経った今も、あのときの言葉が耳に残っている。先生というのはそれくらい人生に大変な影響を与える仕事なんだと思いますよ。

池田 昔と違って、今は小学校から大学まで先生が忙し過ぎるというのがあって、そこが一番の問題になっていると思います。たとえば、我々が小中高を過ごした頃、あるいは大学もそうですが、先生の家に呼ばれることがよくありましたよ。家にいくと、児童や学生を家族ぐるみで面倒見てくださいました。昔はそうやって子どもや学生にかける時間があったのに、今はそんな余裕もない。しかも、ありとあらゆる雑務が降りかかってくるから、本業でさえもなかなか…。

橋本 高校の同級生が校長先生をやっている、その学校を訪ねたことがあります。職員室を覗くと、先生はみんなパソコンに向かっていました。実は私の両親は学校の先生だったんです。当直の夜、

かということを言いたいがために一生懸命勉強して、質問の準備をして、議論を吹っかけに行った。今じゃそれがどこに行ってもほとんど見られない。一つには教員と学生との間の知識量の差が絶対的になっていくというところもあるけど、先生に食らいついてやるという熱量が学生の側になくなっているんですね。

橋本 それはちょっと憂慮すべきことですね。今、調べものというふうにみんなインターネットを使いますが、私は「ボタンの文明」と呼んでいるんです。つまり、押せば何かが出てくる社会に、あまりにも慣れすぎてしまっている。自動販売機、パソコン、今はスマホですか。この先、どうなっていくのか。

池田 大学の入学式の式辞で、「スマホやめませんか、それとも大学生やめませんか」と訴えた学長がいましたね。気持ちにはわかるけど、それは無理な話。スマホをやめるなんていう短絡的な懐古主義は通用しません。パソコンであろうがスマホであろうが、基本的には外部の記憶装置に過ぎない。でも、それに頼りすぎると何が起ころか。

たとえばカーナビを使えば、目的地には確実に着くけれど、途中の道順は覚えられない。別に覚える必要はないといえはそれまでですが、カーナビはいいとして、何かを学ぶということについてはそうはいかない。途中のプロセスが大切なんです。そこに辿りつくまでに何があったか、わからなくなったらどこまで戻ればいいのか。思考の経



さいと言う。なぜなら、書くときに一度は見えて覚えるから。コピーだと、それで安心しちゃって勉強しなくなる。今はウェブ検索、スキャンとさらに先を行っている。便利な世の中になると、人はどんどん楽をする方向に走るから困りものだね。

最後は、英和の大学がめざす方向性の話題になった。特に英和教育の特徴であるリベラルアーツについて話が盛り上がった。

大学教育の本質は リベラルアーツにある

橋本 大学で何を学ぶか。私は単に知識の量を増やすことではなく、その土台となる基本的なこと、考えることの大切さを学生に学んでほしいと思います。

池田 それはリベラルアーツのことを言われているんだと思います。リベラルアーツ、日本語だと適当な訳語がないですが、一般的には教養科目のことですね。じゃあ、何が教養なんだという議論もあります。

私も大学教育の本質はリベラルアーツにあると思っています。しかし、そう言うとき必ずこういって反論が来る、「ギリシヤやローマの古典を勉強して、それが何の役に立つのか」ってね。我々が古典や

文学を学ぶのは、もちろん何かの役に立つからじゃない。人間がものを考えるときの考え方というのは、古代ギリシヤだろうが今だろうが変わらないんですよ。

橋本 まったくそうですね。

池田 今、時代を反映して実学志向になってきています。文部科学省が国立大学の文系学部廃止の通知を出したとかいわれて騒がれたこともありました。社会の要請から、文系・理系の枠組みを外して学問の融合を進めていこうという動きもあります。しかし、人文系に変わって文理融合的な新しい学部をつくったとしても、これまでとまったく違うようなものの方や考え方が出てくるわけではありません。人間がものを考える経路や順路というのは、山登りのルートと同じで基本的に変わらない。そのルートや登るための技術を教えるのが学校です。

橋本 何のために本を読むのかと人から聞かれたとき、私はこう答えることにしています。「私にとっでは記事を書くためだが、本を読んでそれがすぐに役に立つということはない。しかし、それは自分の中に沈殿して、やがて芳香を少しずつ放つようになる。それには時間がかかるんだ」と。そもそも、今日明日の次元で役に立つか立たないかで考えるものではないんですよ。

池田 それはその通りです。教育自体がそうなんです。学校で受けた教育が社会に出てすぐに役

一般論としてその通りだと思います。というのは、教職免許を持っているから。ところが大学教員の場合は、基本的に教職免許は要りません。では、大学教員としての資格は何かというとき、現役の研究者であること。それを自分で証明し続けなければならぬ。要するに研究業績を上げないといけません。

それから大学の場合、学生は未成年であっても成人として扱うという約束事があるので、ああしろ、こうしろ、という指示ではなく、こうしたらどうですかという提案をしなければならぬ。と

大学の本来の役割とは何なのか。 それを果たすために必要なこと。

ころが、今はどこの大学に行っても学生が幼くて、

少し前までは大学1年生を高校4年生だと思っていたけど、今は中学7年生と思わないと。

橋本 英和でも学生に先生の評価をさせているんですか。

池田 それをやらないと、文部科学省や大学基準協会から大学の認証評価がもらえないんです。でも、学生に評価をさせると人気投票になってしま

うんですよ。
橋本 それでは何の意味もないですね。

路を自分で記憶していないと、次に進めなくなるんです。外部記憶装置は単なるバックアップであって、やっぱり自分の頭で考えることをメインにしていけないとね。

橋本 スマホで検索して調べても、ほとんど記憶に残らない。私は子どもたちに、新聞の切り抜きをしなさいと言うんですよ。そうすると、記事を読んだとき、次にそれを切り抜くとき、最後はそれをノートに張るとき。3回読めば頭に入る。切り抜きというのは、スマホでサッと引くのは全然違うんですよ。その大切さをどうやって教えるか。小さい子ほど、うん、うんと話を聞きます。これが大学生になると全然ダメ。スマホのほうが便利だからって。その便利さがダメなんだよと教えるところから始めないといけない。

池田 私の授業では、試験のときに自筆のノートの持ち込みを許可しています。すると学生から、コピーではダメなのかという質問が飛んで来る。私はノートは借りてもいいが、自分で書き写しな

立つと考えるのは間違いで、そこで教わったことはだんだんと発酵されていって、さまざまな形となって外に出てくる。教育の効果というのは、「棺を蓋いて事定まる」ということだろうと思います。

それと、学校教育というのは惰性の強いシステムなんです。今この瞬間に舵を切ったとしても、すぐに方向は変えられず、しばらく船はそのまま進んでいくわけです。そうしたことを考えないでゆとり教育を導入して、それがうまく行かなかったらまたそれを戻して、なんてことをやっていたら話にならない。その間にだって教育自体は続けていかなきゃいけないわけだから。

橋本 制度の変更というのは、「労多くして功少なし」という話になりがちですね。

池田 特に教育に関しては、小手先でいじってはいかんのですよ。

橋本 私はかねがね持論があって、教育問題の解決は実は簡単なんじゃないかと。それは先生を大切にすること。先生を雑用から解放し、生徒や学生と向き合う時間をつくってあげることが必要だと思っています。そのためには教員数を増やして、給与も上げないといけない。現場の校長先生にも裁量をもっと与えて、先生が良い仕事ができるような職場環境をつくるべきだと思うんです。

池田 幼稚園から高校までの先生に関しては、一

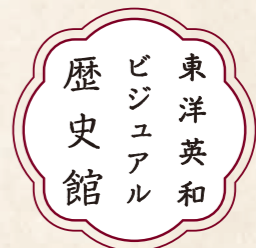


池田 もうひとつ私が疑問に思うのは、シラバス制度のあり方です。授業が始まる前に全15回の講義の内容を書くことを求められるけど、教育というのはデパートで買い物をするのとは違う。買いたい物リストを持っていき、そのリストにあるものがかごに入れ、リスト通りのものを持って出ていく。それって教育じゃないですよ。

橋本 しかも、提出するのは相当早いでしょう？私も15年間大学講師を務めたことがあります。4月から始まる授業に向けて、前年の9月から10月に出さないといけないんですよ。そんな先のことわかるのかという話ですよ。

池田 大学で教えるのは、そのとき一番先端的な知見や知識です。それは日々更新されていくものだから、数ヶ月経てば陳腐化しているわけです。特に私なんて中東の紛争問題が専門だから。

橋本 学長職がお忙しくて、なかなか研究のほうに集中できなくて大変でしょうね。
池田 はい。しかし職務専念義務があるので、任期4年間は死んだと思ってくれと仲間には言っています(笑)。



File.2

学院に現存する 最も古い プログラム

学院の金庫で大切に保管されてきた古びたスクラップブック。そこには、開校当時から東洋英和で行われたさまざまな行事のプログラムが丁寧に貼られている。これまで一般には公開されたことのない、学院にとって非常に貴重な歴史的資料である。史料室の協力を得て、今回からその一部を紹介していく。

1889年(明治22年)12月20日の「閉校式演習科目」。現在、学院に残っているプログラムで最も古いもの。左ページの裏が英文の表紙となっており、おそらく右ページの裏が和文の表紙と思われる。カナダのミッションスクールである東洋英和らしく英文と和文で構成され、演目は外国由来のものばかりである。最後の「体操」とは、どのようなものであったのか？想像がふくらむ。

『東洋英和女学院百年史』

(第一章 創業期の東洋英和女学校) より(抜粋)

1889年当時の東洋英和女学校

仮校舎において、僅か二名の生徒で発足した東洋英和女学校は、やがて新校舎の竣工とともに漸次生徒数の増加をみるに至った。とはいえ、二四名を収容できる寄宿舎に、初めて生徒が入ったのは、開校の翌年すなわち一八八五(明治十八)年の一月であったという。略)しかしながら、その後の生徒数の増加はき

わめて急激であった。略)

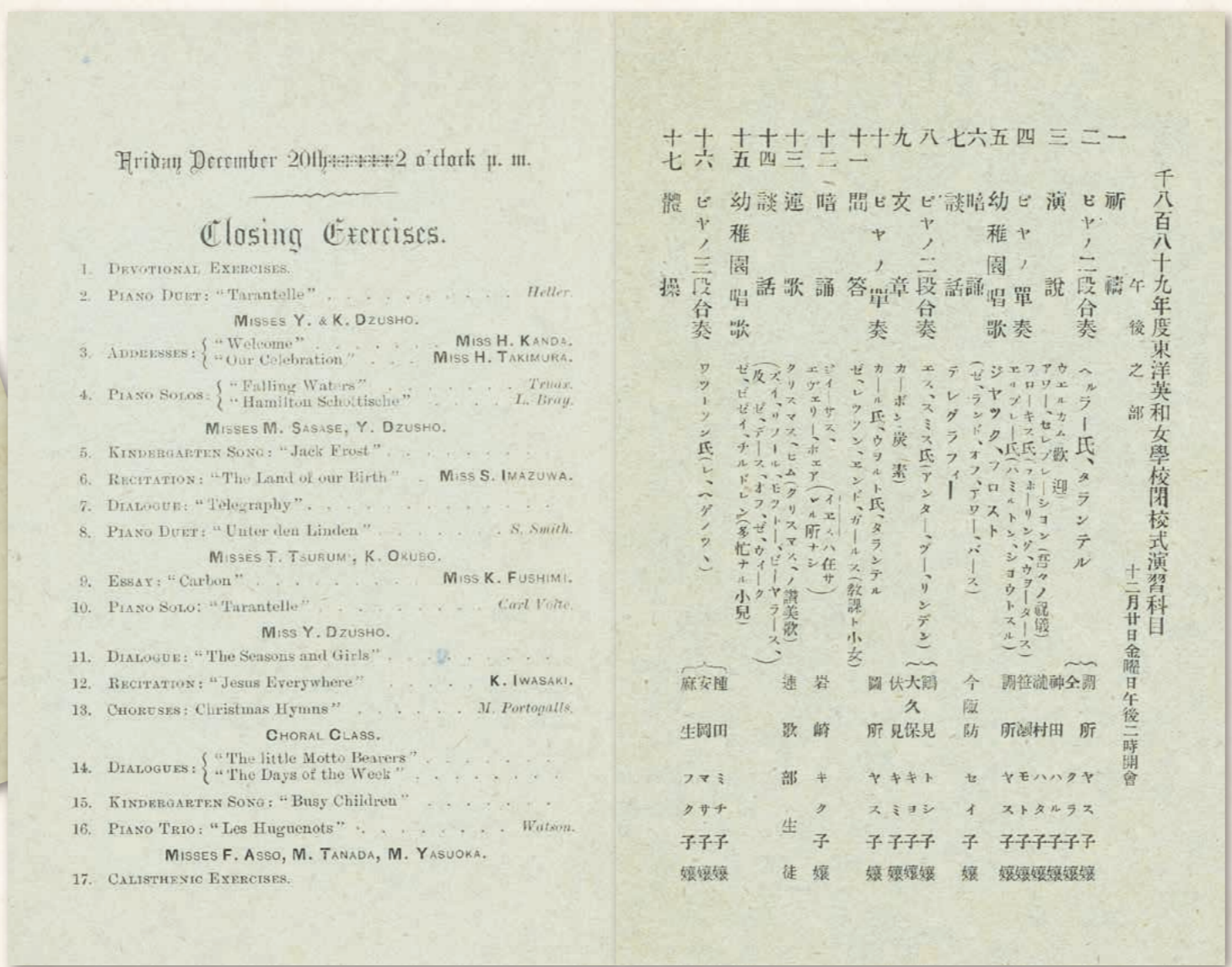
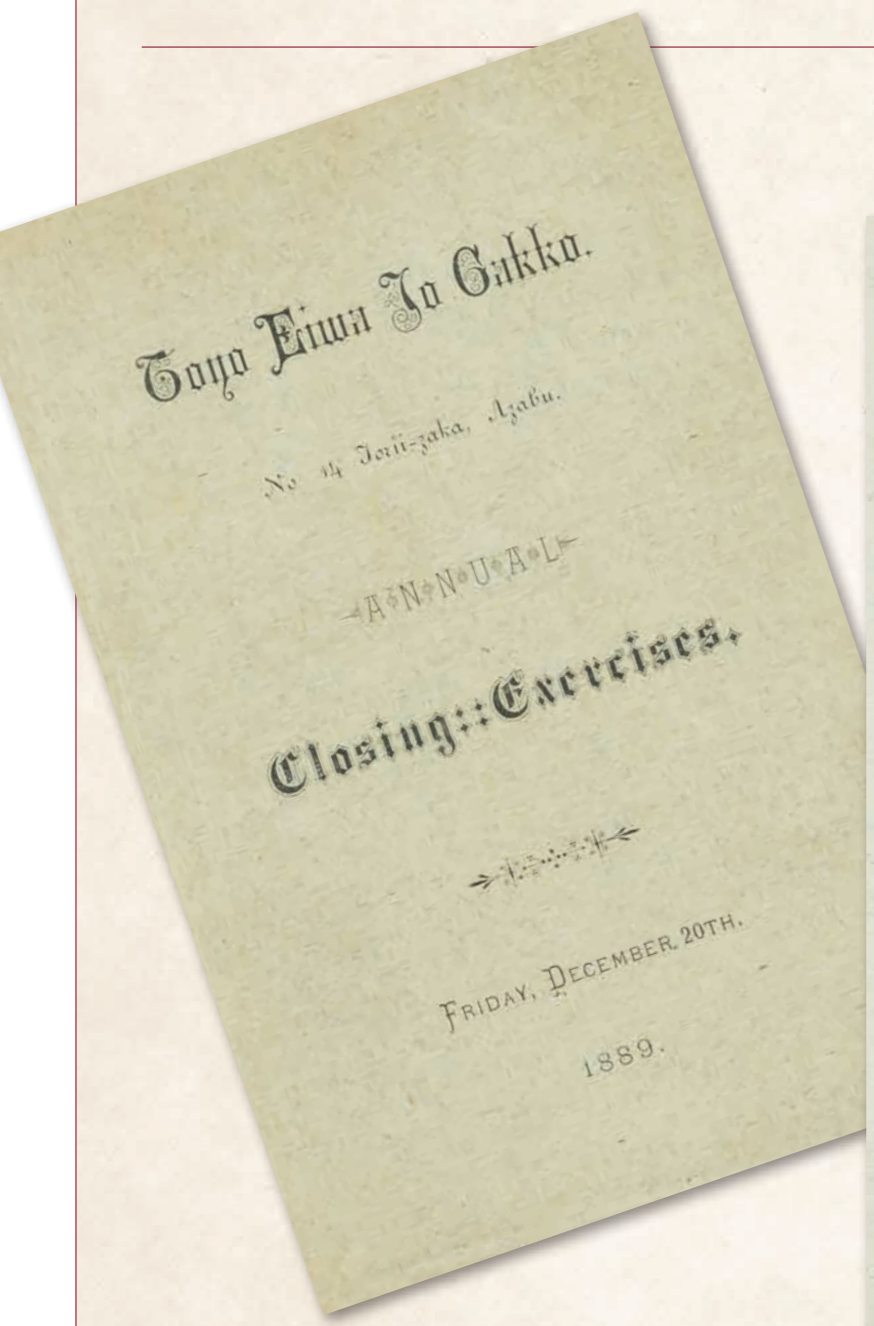
一八八八(同二二)年の状況について、『女学雑誌』二二四号(同二二年八月二五日)は次のように報じている。

「麻布鳥居坂の東洋英和女学校は現今生徒の數二百五十名に達し、尚ほ続々入学者あるに付き此度校舎を取上げ入校を許すと云ふ。」

閉校式の模様

『七十年誌』掲載の川村よね子の「想ひでのまにまに」と題する回想記には、当時「閉校式」といわれた終業式の模様が書かれている。その絢爛たる状況は、東洋英和女学校が上流社会の子女の学校である一面を如実に示している。

「当時の閉校式の盛んなるは、一寸今に見られぬ美事さ、先づ生徒には岩倉(東伏見大妃宮)仁礼(後の齋藤首相夫人)山尾 木戸夫人(本野(岩佐夫人)立田(当時外交官福原資生堂)諸嬢。其他の方々思ひの好み、色取りの目も鮮かなる振袖姿の艶かさ、或は当時最新流行の洋装燦爛たる姿、ステージに現れピアノを奏で、対話、英語、暗誦等の中に交りて英語対話の一役を承り、其の喜ばしさ、楽しさ、丁度絵巻物を見る心地せし昔を今に思出深きことぞかし。」



資料提供: 東洋英和女学院史料室
史料室委員会発行の「史料室だより」が以下のURLから見られます。
<http://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/>

英和茶会

英和生に伝える「お茶の心」

今回のEIWA Familyは「英和茶会」をご紹介します。
英和の高等部二年生は三月の試験休みの半日で、お茶会を体験します。
点心をいただき、濃茶、薄茶もいただくという本格的なもの。
このお茶会を主催し、生徒たちをもてなしているのが
卒業生を中心に集まった「英和茶会」協力メンバーのみなさんです。
茶会当日は三十人を超える協力メンバーがお手伝いに駆けつけるそうです。
今回は、代表の山本万起子さん(1967年高等部卒)と
創設メンバーのみなさんにお話を伺いました。



お茶碗、お菓子も校章をかたどったものを特注した



英和茶会では必ず掛けられる「是道」の掛け軸。未来へ道を探る生徒さんへ送る言葉でもある。茶人として有名な松平不昧公の書

ことの始まりは英和の中高の校舎に、新たに茶室ができた二〇〇七年のこと。たまたま、

英和を訪れていた山本さんは、旧知の高等部佐藤部長からできたての和室に案内された。佐藤部長の「お茶の飲み方くらい教えたいわね」との気軽な一言に山本さんは反応した。「みなさん、お茶って、お薄とお菓子をいただけばそれがお茶だと思っていらいっしょやる。でも、違うですよ。」

日頃から、山本さんはお茶は五感すべてを使う総合芸術だと考えていたから、生徒たちが若い感性でお茶に触れる機会があれば、すばらしい経験になるとその時直感した。生徒たちにとっては、一生で一度の経験になるかもしれない、ならば、茶の湯をトータルで体験できるお茶会を開催したい。山本さんの行動力に火がついた。「佐藤先生、ちゃんとしたお茶会しましょう。私にお任せください。」そうは言ったものの、お茶会は一人で出来る事ではない。山本さんは面識のあったお茶の先生をしている屋代さんに相談しながら、



2016年の「英和茶会」のしおり。制作は同窓生の本間かおりさん

さまざまなるを介し、手探りで英和ネットワークを拡げていった。こうして、第一回目の英和茶会は、進学先が決まった高三の一部生徒九十名が参加して、二〇〇八年三月に開催されることになった。五島美術館庭園内にある茶室「古経楼」を貸し切ったのであった。

英和茶会は、正式な茶事の流儀に則って進められる。茶会当日は、「寄付二迎付」を経た後、身を清め、懐石(お茶)、濃茶、薄茶と

さて、初心者ばかりの女子高生たち九十人のお茶会である。山本さんのこだわりは、小間(茶室)の中でお点前を見てもらうことにもあり、一組は十〜十二人が限度。点心から濃茶、薄茶までを体験すると最低でも二時間は必要だ。一日で八組をどうやって回すか。そこで強力な助っ人たちの登場である。山本さんが作り上げた英和ネットワークの「英和茶会」協力メンバーの二十数名は、当日、あうんの呼吸で九十人のお茶会を完璧に回

してみせた。

「それは、それは、驚きました。他のお茶会では見られない連携のよさ。多くを語らずとも、誰もが心が通じていて、流派を超えて足りないところをさっと助けあう。これが英和生のです。さだか実感しました。まさに、ファミリー。」

屋代さんがお茶のネットワークをお持ちだったのも幸いでした(山本さん)。「英和のお茶の繋がりは、亡くなった清野先生が作ってくださったものです。近藤さん、戸枝さんをふくめ多くの方が清野先生のご縁です(屋代さん)。「清野先生はお茶がとても好きで、今、英和の茶道部が使っているお茶道具も先生がくださったものです。先生が生きていらっしやれば、『英和茶会』をとっても喜んでくださったと思います(戸枝さん)。こうしてはじまった英和茶会も来年で十回を迎える。現在は新宿御苑内の楽羽亭に場所を移し、二日間で総勢百八十名をもてなす大茶会となり、高二の三月の大事な行事となっている。

「後輩の若い子たちが、かわいくて仕方ありません。いつも彼女たちからたくさんパワーをもらっています。立礼席で点心をふるまうのですが、その時が生徒たちとの交流の場です。私も高二に戻って、みんなとおしゃべりするのが楽しみです。お茶の先生でもあ

将来の展望をもって、しっかりといますよ。昨年からは、元茶道部の卒業生が大学生になって茶会をお手伝いしてくれるようになったのは嬉しいことです(近藤さん)。「茶室で座る時、体育座りしちやったり。それもまた、かわいい。母の会のお母さま、お父さま方も協力してくださるようになりました(笠井さん)。「素敵な先輩、後輩と出会えたのしいです。英和のタテの縁がこの会を通じてできました(山口さん)。天真爛漫な生徒たちだが、お茶会の前と後では、顔つきががらりと変わるそう。おしゃべりしていた生徒たちもお茶室でお点前を見る時は静まりかえって真剣そのもの。お茶席が終わった後には、「ありがとうございます。落ち着きました」としつかり挨拶をして帰るといふ。

すから。」



英和茶会の創設メンバーのみなさん(英和中高部の和室にて)。右から、塚原まゆみさん、屋代り重さん、山本万起子さん、近藤秋子さん、笠井章代さん、山口明子さん、戸枝紗永子さん。「英和茶会」のお手伝いをしたいという方はいつでもお声がけください、とのこと

英和茶会では次世代のお手伝いを求めています。茶道経験者(流派不問)はもちろん、母校後輩のために奉仕しようという方、ご連絡をお待ちしています。連絡先:山本万起子 yama-mm117@a00.itscom.net

「一生もの」の自己表現に 出会えた英和時代

切り絵作家

TANTANさん



人に認めてもらったことが
続けていく意志を育てた

切り絵をつくり始めたのは、中学部1年のとき。当時流行っていた消しゴムハンコの延長で、紙に描いた猫や花を彫刻刀で切ってみたところ、なかなかの出映えに嬉しくなり、のめり込んでいった。単純な図柄から複雑なものへと進化し、アニメキャラクターや友だちが描いたイラストなども切り絵にした。手先の器用さが買われて、所属する放送部では放送劇の字幕制作を任せられ、膨大な量の文字を切り抜いた。

「小学部の頃は落ち着きがなくて先生に首根っこを捕まれるような問題児だった私が、切り絵を始めてからエネルギーが全部そこに集中したみたいで(笑)。ペイントと違って色使いに悩まなくていいので達成感を得やすいし、切ること自体も好きでした。時間が経つのも忘れて没頭し、気づいたら朝だったというところもありました」

表現する喜びをさらに増幅させたのは、英和の先生方だった。中2のときの担任の先生は、作品を褒め、参考にと中国の切り絵(剪纸)をくれた。そのとき初めて切り絵が伝統的な工芸品であることを知った。また、授業中に切り絵を

しているのが見つかり、取り上げられそうになったが、それが切り絵だとわかると、注意をただけで返してくれた先生もいた。

「いつもなら必ず取り上げるのに、そうしなかった。もしかしたら認めてくれたからかもってプラスに受け止めたんです。自分がやっていることは価値があることなのかもしれないと思い、ずっと続けていこうという意志が芽生えたのも、その頃からでした」

高一で英和を辞めてアメリカに留学。英語が話せず孤立していた自分を助けてくれたのも、やはり切り絵だった。日本人の女の子がつかめる繊細で精密な紙アートに驚きの目が向けられたのだ。クラスメートに頼まれて切り絵をつくったり、似顔絵を描いてあげたりしていると、それを見ていた先生からこう言われた。「タンタン、ただであげてはダメ、お金をとりなさい」と。

「カルチャーショックでした。いくらアートへの理解があるとはいえ、学校でそれを商売にしているなんて。先生の助言に従い、それからは報酬をもらうようにしました。数ドル程度の金額だけど、自分の作品が売り物になるというのは嬉しかったです」

切り絵があればどこに行っても人と絵作家も少しづつ増えてきているので、私にしか出来ない表現の仕方を追求していきたいですね。また、切り絵は伝統工芸とも深い関わりを持つ分野でもあるので、そこから得られる美しさをたくさんの人に伝えていくことが出来ればと考えています。★

TANTAN
切り絵作家

1993年中学部卒業。高1の時にアメリカ留学。2004年株式会社SLD監査役。07年ニューヨークアートディレクターズクラブ入選、15年minne×ヒューマンアカデミー「クリスタルデコレーション大賞」部門賞受賞、富士フィルムふくふく年賀状入選。出版物として、ハウツー本「切絵工房鳥編・花編」高橋書店(2006年)、「華葩しおり」築地本願寺出版社(2008年)。
www.tantan.tokyo



通じ合える。それは自分にとって一生ものだ——留学を終える頃には迷いなくそう考えた。そして作家として活動していく決意を固め、帰国後すぐに個展を開いた。

「できるだけ出費を抑えてマイナスにならないように心掛けました。営利目的の意識はないけれど、単なるお披露目で終わるのは嫌だったから。知らない人にも購入いただけたし、結果的にペイできた。プロとしてやっていく自信を持ちました」

音楽や映像を使って

切り絵の世界を豊かに表現

現在、活動の軸は二つある。一つはアーティストとしての創作活動、もう一つは切り絵を活用したプロダクトデザインやディスプレイなどの仕事だ。作風は「オリエンタルエレガンス」。コンテンポラリーなデザインよりも、どちらかとい

うと伝統的で繊細な模様のアレンジを得意としているという。

「古美術商だった祖父の影響で、昔から古い文様とか精緻な細工が施されたものが好きで、オリエンタルエレガンスのイメージもそこから来ている、アメリカ留学中から作風に取り入れてきました。また、輪郭にグラデーションをつけるのも私の特徴なのですが、これもアメリカでファッション雑誌のページを切り抜くアイデアから生まれたもの。そうすることで、エレガンスの中にモダンさが出ると思ったので」

たとえばドビュッシーの音楽だったり、水のせせらぎだったり。凶案のモチーフは、音を聞いて発想を得ることも。イメージが降りて来たら絵に起こし、下絵をつくって、切る。「表現したいと思うものがあれば、どんな形にしていこう」というタンタンさん。最近では、「銀河鉄道の夜」を切り絵と音楽と映像で表現す



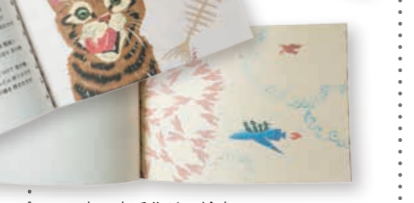
英和時代



内部にキャンドルや照明を入れる切り絵のシェイド



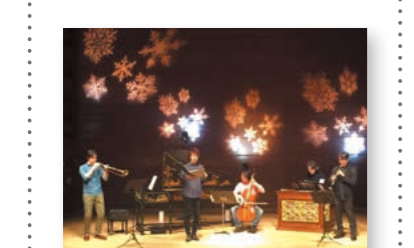
英和のクリスマスカード



一点一点手作りの絵本



切り絵のデザインがあしらわれた傘。モデルは同級生の三浦綾子さん



よみうり大手町ホールで行われたコンサートの一幕

Event MASAMI
「A Heartwarming Concert」

楓の会主催公演でもおなじみのMASAMIさんのコンサートが行われます。今回は、「心、踊る世界の歌」と題して、イタリア、フランス、イギリス、ロシア、ドイツ、チェコ、スペイン、ブラジルなど、世界の名曲を取り上げます。



日時：2017年3月2日(木) 18:30開場 19:00開演
場所：横浜みなとみらいホール 小ホール
出演：MASAMI(ソプラノ)、ルノー・ジゴール(ピアノ・ハーブ・チェロ)、岡崎渚紗(ピアノ)、内田節(ハーブ)、ザ・メイプルズ(合唱)
後援：公益財団法人日本オペラ振興会(藤原歌劇団、日本オペラ協会)
主催：ランプレッション
料金：前売り5,500円 当日売り6,000円
お問い合わせ：ランプレッション
TEL & FAX 03-5726-8957
impression@earth.ocn.ne.jp

Event メサイアをうたう会
「Early Summer Concert」

同窓生、旧教職員などの有志で活動を続けてきたメサイアをうたう会が、今年もEarly Summer Concertを開催します。今年はバッハの作品からパイプオルガンの演奏に続き、カンタータ150番、161番、182番を取り上げます。

日時：2017年5月20日(土) 開場14:30 開演15:00
場所：東洋英和女学院 中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂
指揮：田崎瑞博
出演：隠岐彩夏(S)、志田理早(A)、鈴木准(T)、松平敬(B)、合唱メサイアをうたう会、東京バッハ・カンタータ・アンサンブル
料金：全席自由 1,500円
お問い合わせ：メサイアをうたう会事務局 090-4018-3017



Event 大阪「プチボワ文庫展」

1979年高等部卒業の木版画家・岩切裕子さんが、大阪で開催される展覧会に作品を出品します。岩切さんは88年多摩美術大学大学院修了、東京を中心に個展やグループ展などを展開しています。

今回は、大阪・ギャルリプチボワで開催される、木口木版画家・柄澤齋氏主宰「プチボワ文庫展」(仮)に、版画、コラージュ、ドローイングなどによる作品を出品。この展覧会は、12人の作家がそれぞれ文庫本から好みの3冊を選び、「オリジナル作品のカバー」を作るといふものです。



日時：2017年3月13日(月)～3月25日(土) ※日曜休
場所：GALERIE petit bois ギャルリ プチボワ 大阪市西区南堀江2-13-30 サンイーストビル2F
Tel/Fax 06-6531-8436
http://petitbois.mond.jp

Event 「第4回英和ネットワーク会」
開催

「卒業生が気軽にホームカミングし交流を広げる機会を作りたい」と、2012年に有志が立ち上げたのが英和ネットワーク会です。定期的に集い、思い出話に花を咲かせながら、にぎやかにネットワークを広げています。

今年3月には第4回英和ネットワーク会「英和生らしさって？(仮)」が企画されています。卒業生や関係者であれば普段何気なく感じる「英和生らしさ」。でも、いざそれを言葉や文章にしようとするとなかなか難しいもの。そこで、英和生の特性を改めて考えようというのが、今回のテーマです。詳細は、決まり次第Facebookグループ「英和ネットワーク会」<https://www.facebook.com/groups/391055514280097/>で案内されます。Facebookにアクセスできない場合は、以下のメールまでお問い合わせを。

日時：2017年3月11日(土) 13:30受付開始 14:00開会 15:15頃～16:30お茶会
場所：中高部集会室
会費：500円 or 1000円(お土産付きを予定)
お問い合わせ・参加申込み：mail@eiwanetwork.jp



当日のプログラム

第1部

1. オペラ「タンホイザー」より 歌の殿堂 ワグナー作曲 尾崎美佳子訳詞
2. オペラ「ローエングリン」より 結婚行進曲 ワグナー作曲 尾崎美佳子訳詞
3. オペラ「魔笛」より 僧侶の合唱 モーツァルト作曲
4. オペラ「魔笛」より フィナーレの合唱 モーツァルト作曲
5. オペラ「オテロ」より アヴェ・マリア ヴェルディ作曲 江上孝則編曲
6. オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」より アヴェ・マリア マスカーニ作曲 江上孝則編曲
7. オペラ「カルメン」より 女工達の合唱 ビゼー作曲
8. オペラ「カルメン」より 行進と合唱 ビゼー作曲

第2部

- I オペレッタ「メリー・ウイドウ」より レハール作曲
 1. ヴィリアの歌
 2. 女、女、女のマーチ
 3. 二人は気ままに
 4. 高鳴る調べ
- II オペレッタ「こうもり」より ヨハン・シュトラウスII作曲
 1. 夜会は招きよ 川崎市民オペラ訳詞
 2. 侯爵様、あなたのような方は
 3. シャンパンの歌
 4. ドゥイ ドゥ (きみ、ぼく)

2016年11月12日(土)14時より、新マーガレット・クレイグ記念講堂にて楓の会主催のザ・メイプルズ・コンサートが開催され、400人を超える参加者が集まりました。今回は、オペラ指揮者であり、世界的なアーティストからも信頼を置かれる江上孝則さん、ソプラノ歌手のMASAMIさん(高等部卒業生)、ピアニストの岡崎渚紗さん・牧華子さん(ダンサーの高井彩加さん(高等部卒業生)、そして、2012年に結成された学院初の混声合唱団「ザ・メイプルズ」のみなさんをお招きし、大講堂で心をひとつに珠玉のオペラ合唱曲に耳を傾けました。

コンサートは、ワグナー、モーツァルト、ヴェルディ、マスカーニそしてビゼーのオペラ合唱曲から始まり、オペレッタ「メリー・ウイドウ」「こうもり」の中の有名曲へと続きました。素晴らしい演奏に会場は感動の渦に巻き込まれ、終了後は長い間拍手が鳴りやみませんでした。

東洋英和
楓の会主催

ザ・メイプルズ・コンサート
「珠玉のオペラ合唱曲を歌う」(秋の芸術公演)



東洋英和楓の会共催イベントのお知らせ

楓の会では、以下のイベントを予定しております。

「音楽のさんぽ道コンサート (秋の芸術公演)」

日時：2017年11月23日(木・祝) 14時～16時

場所：中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂

料金：無料

共催：東洋英和楓の会、(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団



今回のイベントは、2016年8月に港区と締結した連携・協力に関する基本協定もあり、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団との共催で、音大生を招いたコンサートを開催します。詳細内容は次号でお知らせします。

Event 明治座三月公演「細雪」

水野真紀さん(90年短期大学卒)が、明治座三月公演「細雪」に出演します。

期間：2017年3月4日(土)～4月2日(日)
開演11:00 / 16:00

場所：明治座

出演：賀来千香子、水野真紀、紫吹淳、壮一帆、ほか

料金：S席13,000円 A席9,000円 B席6,500円

チケット：明治座チケットセンター
(10:00～17:00) 03-3666-6666
※10名以上のグループ観劇 03-3660-3941



Event 地唄舞公演

花崎流家元・花崎杜季女さん(76年高等部卒)が、6月にポーランド、11月に国立小劇場で、地唄舞の公演を行います。



■ ポーランド3都市公演とワークショップ
2017年6月1日(木)～6月16日(金)
ワルシャワ、ブロッツワフ、クラクフ

■ 花崎会(花崎流地唄舞の会)
2017年11月9日(木) 国立小劇場

お問い合わせ：(社)地唄舞普及協会
TEL 080-3933-8731 jiutamai.fukyu@gmail.com